

彼方「かなた」

校長通信
H30.12.14
Vol. 25

【キャリア教育ってなあに?】



夏休みに二年生が職場体験を実施し、先週一年生が職業人講話を開催しました。そこで、今回の「彼方」は、「キャリア教育」について考えてみたいと思います。

文部科学省は「キャリア教育」を次のように定義しています。「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」(キャリア発達とは、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程)業界用語なので仕方ないとは思いますが、理解するにはなかなか難しい表現です。もう少し柔らかく言うと、「子どもが社会で働いて自立するために必要な力を育みながら、自分の役割を果たすことや自分のよさを引き出すことを目指す教育」というようなことです。では、何が問題で「キャリア教育」の重要性が叫ばれているのでしょうか。大卒の三分の一(十数万人にも及ぶ人数)の学生が三年以内に離職していることやこれから少子化時代を迎えるにも関わらずニートやフリーターの問題が改善されないという現実があるからです。離職率については、よく「七五三」と言われています

が、中卒、高卒、大卒の三年以内の離職率が、それぞれ七割、五割、三割にもなるそうです。「こんなはずじゃなかった」「もっと自分にあつた仕事があれば」というのが離職理由の大半です。

- 「進路選択に対する目的意識」の希薄さ
- 「働くことの意義・喜び」を学ぶこと
- 「世の中の実態や厳しさ」を学ぶこと
- 「なぜ学ぶのか」を学ぶこと

これらに対する課題意識が低いことが問題なのです。思い通りにならなくても事実から目をそらさず、解決の糸口を探し、行動する力強さが必要なのです。

「世の中は、なかなか思い通りにならない。でも、目標を持って取り組むことで確実に夢に近づくことはできる」あるいは、「思い通りにならなくても、自分の役目や自分の良さを生かすことで世の中の役に立ったり、人のためになったりすることはできる」ということを、今までの「彼方」の中でも伝えてきました。が、いろいろな機会を通して、是非学んでほしいと思います。

三年生と面接練習をする中で「学校生活で一番頑張ったことは何ですか?」という質問に、多くの三年生が部活動や行事について話してくれます。練習がきつかったことや最初は思い通りにならなかったけれど最後はみんなと心をつなげて頑張れたことなどを笑顔で語ってくれます。このような中学校生活での経験そのものが、実はとても大切な「キャリア教育」になっているのです。

自分の進路実現に向けて、勉強時間を増やしたい、生活態度ももっと良くしていきたい、授業を大切に

していきたい、委員会や部会での自分の役割をしっかりと果たしたい、部活も続けたい、学級の人々とも最後なので思い出をつくりたい、朝や放課後に学習会をしたい、昼休みはみんなと遊びたい、ゴールが見えてきた三年生から沢山の「〜したい」が聞かれます。「自分やみんなのためにもっと何かしたい。今抱えている問題を解決したい。だから今自分ができることは何? みんなでやれることは何だろうか?」そう考えながらできることから一生懸命取り組み続ける、これこそがまさに「キャリア教育」なのです。

「キャリア教育」は難しいことではありません。昔から地域の大人が子供達に声をかけて育ててきたことを改めて意識するだけだと強く思います。「あいさつをする」こと、「人を思いやる」こと、「嘘をつかない」こと、「約束を守る」こと、「自分から動く」こと、「諦めずに続ける」こと、「最後まで責任を持つ」こと、「がむしやりに頑張る」こと、「公共のものを大事にする」こと、「食べ物や粗末にしない」こと、「お陰様でと周りに感謝する」こと等々、こういったことをもう一度、家庭や学校で意識し、学んでいくことが「キャリア教育」です。それは、仲間と切磋琢磨し、隣の人を支え、思いやり、最後まで諦めずにやり抜くたくましさや身に付ける教育でもあり、学校教育目標(みがき合い・支え合う、心豊かでたくましく生きる)そのものなのです。

「あなたの良さは何ですか?」「ハイ!○○です!」卒業後の進路実現に向けて自分の良さを、胸を張って話すことができる三年生が、この白山中に沢山いることを本当に誇りに思います。